



「あいさつ」は 人としりあう あいことば

『最近では寒い日と暖かい日が交互に来ます。体調をこわしやすいで気をつけて生活しましょう。それでは、朝のあいさつをしましょう。お早うございます。(おはようございませう。まあす。)]』

元気に挨拶ができました。今、6年生のお兄さんからお話があったように、この時期は「三寒四温」と言って三日寒くて4日暖かくなる。少しづつ春が近づいて暖かくなってくる時期だという意味です。

さて、2月ももうすぐ終わり。どの学年も、心を一つにして一年間のまともに頑張っていると思ひます。

さて、今日はその「心を一つ」にすることととても関係のあるはなし、『あいさつは人と知り合うあいことば』という話をします。

いつもお話ししているように、あいさつは思いやり、相手の人のことを大切に考え、「元気ですか。」「大丈夫ですか。」「今日も一日よろしく。」という自分の気持ちをお互いに伝えるもの。そう、あいさつは思いやり、心のキャッチボールなのですよね。そして温かいあいさつがあると心が通ひ合い、お互いの心が一つになるように思ひます。

朝いつも乗ってくるバスで、新聞を広げて足を組んで乗っているおじさんがいます。他のお客さんはその横を通る時、迷惑そうな顔で通ります。でも、このおじさん降りるときはいつも大きな声で「ありがとう。」と大きな声で運転手さんに挨拶していきます。すると、不思議なことになっている人がみんな笑顔になります。

もうひとつ、ちょうどそのおじさんが降りるバス停から、ランドセルを背負った小学生の女の子が乗ってきます。この子はお母さんと一緒にバス停まで来ていて、女の子がバスに乗るとバスの斜め前の方に立って見送っていて、バスが動き出す前に運転手さんの方に両手をそろえ深々とお辞儀をします。まるで『うちの子をどうかよろしくお願ひします。毎朝ありがとうございます。』と、言っているようです。始めのうちは若い運転手さん黙って見ていましたが、何日化するうちに、運転手さんもこくくと頭を下げ会釈するようになりました。

知らない人と最初に知り合うのは「あいさつの言葉」からです。

そう、挨拶一つで知らない人の心とつながることも、逆に嫌われてしまうことも、あるのです。

たったひとことの挨拶ですけれども、人と人が知りあい、仲良くなるために、とっても大切なものなのです。

心をこめて、相手の人を思いやって、元気に、丁寧に挨拶をする。たくさんの人と知り合いになる、「はじめの一步」です。

私も、毎日元気な気持ちで朝を迎えるわけではありません。時には心配なことも、疲れていて元気が出ない日もあつたりします。でも、学校へ来て皆さんの笑顔あふれる挨拶や元気な声に出会うことで、思わずもりもりと元気と笑顔の出る毎日です。

「おはよう」と挨拶をすると、笑顔でおはようと返してくれる人、にこっと笑顔を返してくれる人、恥ずかしそうにこちらを見て会釈を返してくれる人、「はいっ。」と、気持ちよく返事してくれる子。思わず、今日も学校に来てよかったなあ、と思わずつぶやいてしまひます。

挨拶は、するのもしないのもその人の自由です。でも、知っている人と会つたら、まして声をかけられたら、おはようの言葉を返せたらいいなと思ひます。

今まで、知らない人にはやっぱり挨拶しにくいな・・・。と思ひていましたが、考えて

みれば、知らない人でも、自分の家へ来たお客さんなら、挨拶しますよね。桃五小にも、たくさんのお客さんが来ます。お父さんやお母さん方も来ます。みんなお客さんです。挨拶ができると、きっと明るい素敵な学校になるような気がするのです。

1月に理科や生活科の授業を見に、杉並区内や、遠く東北、九州、等などから大ぜいのお客さんが桃五小に来ました。その先生方から、ノートの取り方や意見のいい方、授業中のことについてたくさんのおほめの言葉をいただきました。その中で、「授業中の態度も素敵なお子さんたちですが、休憩時間に他の教室に行こうとして迷っていると、何人ものお子さんたちが、どちらに行かれるのですか、と声をかけてくれて案内までしてくれました。素敵なお子さんたちですね。ありがとうございました。」という言葉は何人もの先生方からいただきました。

「挨拶をしない」とは言いません。言われてするものではないからです。でも、挨拶はたくさんの人と知り合う大切な入り口、合言葉のようなものです。

挨拶を通してお客さんばかりではなく友だち同士でも思いやりを持って心のキャッチボールのできる桃五小になると、きっともっともっと、誰もがみんな来るのが楽しみになると思うのです。

皆さんのちょっとした心遣いでそんなすてきな桃五小を創りましょう。元気な挨拶、できるといいですね。おはなし終わります。

もうすぐはるですよ・・・

